史林

一九五七年四月二五日印刷
一九五七年五月一日発行

第40巻　第3号　　史学・地理学・考古学

李大釗の出発……里井彦七郎（1）
——「言治」期の政論を中心に——

江戸時代初期に於ける教訓仮名抄について……今中寛司（40）
——春鑑抄・三徳抄・彝倫抄の思想史的系譜——

院政と鳥羽離宮……村山修一（56）

書評と紹介

渡辺澄夫：畿内庄園の基礎構造……石田善人（80）

オトレンバー著
藪内芳彦訳：一般工業地理學……西村睦男（85）

会報・学界消息

史学研究会

京都大学文学部内

京都大學文學部東洋史研究室
東洋史研究會
振替口座京都三七二八番

⑨ 武内義雄「儒教の精神」 六六頁
⑩ 西村天囚「日本宋学史」 一一一―二頁
⑪ 足利衍述「鎌倉室町時代之儒教」 三四六―七頁
⑫ 〃 〃 三五七頁
⑬ 彝倫抄 古板本 一一丁
⑭ 京大本、宣賢自筆「孟子抄」 尽心上下
⑮ 相良亨「近世日本儒教運動の系譜」 八七頁
⑯ 春鑑抄 続々群書類従、第十、教育部 五一頁
⑰ 拙稿「心学五倫書とその歴史的背景」 京都女子大学紀要 一二号 一〇頁
⑱ 鈴木大拙「禅と日本文化」 一四頁
⑲ 春鑑抄 五二―三頁
⑳ 彝倫抄 一七丁
㉑ 〃 三〇丁

〔附記〕本稿は昭和三十一年度文部省科学研究助成補助金による研究の一部である。

史学研究会六月例会

日　時　六月十五日（土）午後一時―四時
場　所　京都大学陳列館第二教室
講師演題　**西南アジア史の諸問題**
未　定
二つの乾燥地帯　藤本勝次氏
西南アジア史研究の動向　梅棹忠夫氏
中原与茂九郎氏

史学研究会七月例会

日　時　七月六日（土）午後一時―四時
場　所　京都大学楽友会館
講師演題　**中国考古学視察団帰朝報告**（予定）
訪中日本考古視察団の団員として五月中旬より一ヶ月にわたって中国を視察した水野精一、樋口隆康、岡崎敬三氏の帰朝談を予定している。（スライド使用）

顕著となつたのであつて、元来離宮の構造が全体として散漫で中心なく、院始め皇族達が任意にいくらでもあとから増築してゆけば果しのないものになるのと同様な性格をもつていたのである。院政の実体も、本当はそうしたところにあつたので、上皇一人一人の考えが皆違い、一人でも時期によつては方針をいくらでも変えることが出来た。歴代院政の共通点はそこにあるので、律令的な意識のうちにあり乍ら、律令的先例乃至摂関政治的先例を平然とぶちこわし、恣意的な自由さを以て目先の時局を糊塗してゆく強引さに存する。その場合受領の存在こそは最も目立つものであつたが、受領の小数有力者への集中は、決して受領そのものの権力を増強する結果にはなつていない。むしろそれは院の手先としての役割に一層の重要性が加わり、院への依存度が高められたにすぎない。[3] 而もそうした時期に、一方では在地武士との結びつきを強化し、軍事力の涵養をおこたらなかつた平氏の如き受領があり、公家仲間からは一段と侮蔑の眼を以て見下げられていた。然るに院政の恣意的登用の中にこの賤しめられた受領が加わつたのである。之もその無計画性・放縦性のあらわれであるが、結果においては院政が律令時代より封建時代への推進を契機づける重要な役割をみづから選んだことを意味するのであり、決して摂関政治のあだ花として片付けてしまえぬ意義をもつていたのである。そうして、離宮の歴史こそは之を最も具体的に我々に物語るものであつたのである。

註

① 中右記、永長元、七、十二条、康和五、五、九条など。

② 同　永長元、三、一条　康和四、三、二十条など。

③ 院近臣必ずしも院に忠実でない証拠として、玉葉（建久九、六、五条）の除目の記事があげられるが、之は後鳥羽院政下に起りえても、強力な白河・鳥羽両院政下では考えられないことである。

（本稿はもと城南文化綜合研究の一環として起草されたもの、その要旨は昭和三十一年六月の説史会大会で発表した。）

執筆者紹介

里井彦七郎　京都大学助手

今中寛司　京都女子大学教授

村山修一　大阪女子大学教授

石田善人　京都大学助手

西村睦男　京都大学助教授

会報

◇史学研究会役員のうち理事・監事は、会則に従い次の通り決定しました。

理事長　宮崎市定
理事　赤*松俊秀（編集）　有*光教一（会計）
井上智勇　織*田武雄（会務）
小葉田淳　佐*藤長（庶務）
柴田実　田村実造
豊田堯　藤岡謙二郎
前*川貞次郎（研究）　水野清一
（五十音順・*印は常務理事）
監事　藤直幹　森鹿三

なお、委員は次の通り委嘱されました。
朝尾直弘（国史）竺沙雅章（東洋史）永井三明（西洋史）
末尾至行（地理）西谷真治（考古学）熱田公（庶務）

◇前理事長原随園氏は、三月京都大学を停年退官されましたが、会則第二章第八条の規定により本会名誉会員に推薦されました。

編集後記

会報に掲げたように、本会は多年にわたつて運営に尽力された原理事長の退職にともない、役員も陣容を改めて再発足することになりました。このときにあたつて、これまで本誌の財源のひとつとなつてきた文部省の出版助成金が、本年度からうち切られることになつたのは大きな痛手といわなければなりません。善後策について理事会では討議が重ねられ、発行回数の減少、減頁などの案も出ましたが、せつかくこれまで盛り上げてきた「史林」の伝統をくずすことなく、従来通りの方針で発行を続けてゆくことに意見の一致をみました。今後とも会員諸賢の御支援をお願いする次第です。ついては未払会費の整理が目下の急務となつていますので、ふるつて納入下さるようお願いいたします。

（西谷真治）

一九五七年四月二五日印刷
一九五七年五月一日発行
史林（第四〇巻　第三号）
定価　百円
発行所　京都市左京区吉田本町　京都大学文学部内　史学研究会
理事長　宮崎市定
編輯主任　赤松俊秀
振替京都五一五五番
印刷所　京都市下京区七条御所ノ内東町三九　中村印刷株式会社

THE SHIRIN

or the

JOURNAL OF HISTORY

Vol. XL NO. 3 May 1957

CONTENTS

Articles

Recommencement of *Li Ta-chao* (李大釗) ——mainly on his political arguments in the "*Statemanship*" (言治) period——……*H. Satoi* (1)

Kyokunkanasho (教訓仮名抄) at the Begining of the Edo Era——on the lineage of *Shunkansho* (春鑑抄), *Santokusho* (三徳抄), and *Irinsho* (彝倫抄) in the history of ideas ……*K. Imanaka* (40)

The *Insei* (院政) Government & the *Toba* (鳥羽) Palace …… *S. Murayama* (56)

Book Reviews & News

Published

by

THE SHIGAKU KENKYUKAI

(*The Society of Historical Research*)

Kyoto University, Kyoto, Japan